

ワイキキの浜辺

海と空の境目の線が見事に描かれていた。その水平線の彼方まで見渡せる場所で、私は唯ぼんやりと時間のたつのも忘れ眺めていた。ここから見てみると地球が丸いことが分かる。都会で生活をしていると、このようなことを見ることも感じたこともない。ワイキキの浜辺でのことである。真冬の日本を発つときは大雪警報が各地で出されていた。6時間ほどのフライトで常夏の島ハワイは、太陽の光り眩しくクーラーが必要であった。

ハワイ訪問は確か今回で5回目だったと記憶する。しかしのんびりとワイキキの浜辺で海水浴を楽しんだことは一度もなかった。泳げないからではない。泳ぐ時間的余裕が全くなかったのだ。コバルトグリーンに輝く海、南海の太陽、白い砂浜、サンゴ礁、ヨットにカヌー……。日本では味わえない楽園の島がハワイである。

ワイキキの浜辺で目にするのは、白人の人達は日光浴を楽しみ、ゆっくりと読書にふけり、昼寝をする。それはまるで時間が止まったかのような時間を過ごしている。一方、日本人の多くは行動派で、海水浴に浮輪、ボートにサーフィン…。少ない時間を精一杯楽しもうとしている。そうしなければ損をするかのように。それは忙しい日本人を象徴しているように私には映った。

ダイヤモンドヘッドとワイキキの浜辺は、ハワイを代表する美しいロケーションの一つだ。それは日本だけでなく世界中の人達のあこがれの場所となっている。この美しさをいつまでも。そしていつの日かまたこの場所に帰ってこられますように……。 撮影 2010年冬

